

各分野からみるジェンダー・ギャップ指数

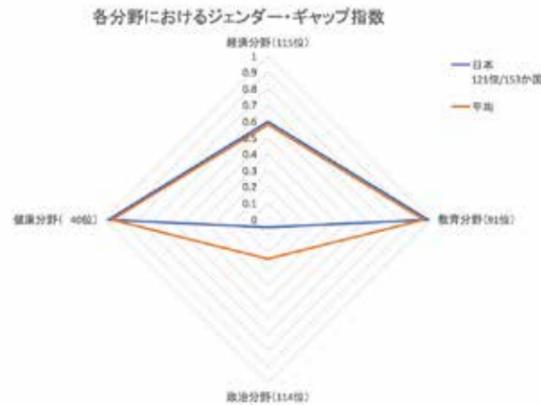
毎年、世界経済フォーラムが、男女共同参画を示す指標であるジェンダー・ギャップ指数 (Gender Gap Index) を発表しています。日本は、昨年度153か国中「121位」と、先進国では最低水準となっていました。

また、各分野におけるジェンダー・ギャップ指数 (政治、経済、教育、健康の4分野) を153か国の平均と比較してみると、日本は、政治分野の数値が特に低くなっていることがわかります。具体的には、男性と女性の国会議員に占める比率や官僚の比率等がこの数値となります。

しかし、近年、日本でも女性活躍に向けた推進に力を入れており、一定の成果を残しているところでもあります。2021年のジェンダー・ギャップ指数はこれからの発表となります。

どのようになるのか、楽しみです。

(令和3年2月末時点)



世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2020」より作成

男女共同参画社会の推進のために…

南アルプス市は、市民一人ひとりの人権が性別や世代に偏ることなく尊重され、ともに輝き、生きがいのある男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいく決意を表明するため「男女共同参画都市宣言」を行っています。

南アルプス市男女共同参画都市宣言

～男女が共に「個として輝き、共に参画するまちづくりをめざして」～

- 男女の人権の尊重とその実現
- 男女が共に自立して支え合う家庭づくり
- 男女共同参画による豊かな地域社会づくり
- 男女が平等で共に働きやすい職場づくり
- 男女共同参画プランの推進体制づくり



男女で創る



未来地図



南アルプスハーモニープラン推進会議 活動報告

防災班・LGBT班・子育て班

女性団体連絡協議会 活動報告

南アルプス市で活躍している女性

女性消防士・農業女子・新女性議員

さんかくニュース

さんかくデータ

さんかくニュース

令和2年度 山梨県男女共同参画推進事業者等表彰
女性チャレンジ表彰受賞

特定非営利活動法人 あんふあんねっと

山梨県男女共同参画推進事業者等表彰 女性チャレンジ表彰とは、地域でさまざまな活躍をしており、チャレンジする身近なモデルとなる女性団体を、県民に広く周知することで、男女共同参画社会の形成を目的としている事業です。



「特定非営利活動法人 あんふあんねっと」は、「子育て・親育ち」を軸とした子育て支援活動を行っています。また、だれでも安心して過ごせるスペースの提供や子育てに関する様々なイベントを開催しています。

この度は、男女共同参画の基本理念と子どもの視点に立った子育て支援のあり方の普及啓発活動事業を行い、豊かで優しい未来社会の実現に向けて日々活動を行っている団体として評価されました。



男女共同参画啓発事業

川柳・標語の優秀作品

男女共同参画に関する川柳・標語を募集し、755点の応募をいただきました。たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

入賞作品

小学生の部 中学生の部 一般の部

人生を
自分らしさで
生きていく

(小笠原小6年 杉山奏多さん)

助け合い
男女で創る
未来地図

(白根巨摩中3年 長谷川礼さん)

通学路
虹色ならんだ
ランドセル

(堀田麻耶さん)

入選作品

ロッカーに いろんな色の ランドセル
(白根百田小4年 松本 美月さん)

みんなでね マスク着用 ご協力
(大明小4年 川口 結姫菜さん)

ありがとう 家族みんなの 愛言葉
(櫛形西小6年 依田 のんのさん)

ありがとう 家族やみんなに つたえたい
(白根百田小5年 最上 颯真さん)

ささえあう 力を合わせて 差別なし
(豊小6年 野中 あおいさん)

理解する 互いの違い 決めつけず
(白根巨摩中3年 宮澤 大和さん)

男女の壁 未来の私は どうしたい？
(白根巨摩中3年 竹野 なつみさん)

認め合い 認め合うほど 多様性
(巨摩高1年 中込 大地さん)

いい笑顔 そうさ誰もが 主人公
(白根高1年 高垣 駿太さん)

理解の輪 性別越えて 笑顔の輪
(巨摩高2年 保坂 愛留さん)

防災班では、防災と男女共同参画というキーワードから議論を重ね、アンケート調査の実施や研修に参加し、「南アルプス市の防災のあるべき姿」について、現状や課題について整理し、今回の提案をまとめました。

現状・課題

だれが

提案

市内小中学校のアンケート調査結果 (22校)

- 防災訓練を平均4回/年実施
- 訓練内容：火災6割、地震3割、その他1割
- 防災に関する勉強会実施：約半数
(市内の地理的な特性による
災害想定訓練は一部のみ)

学校



地域の実情に合わせた防災訓練を実施する
(例) 土砂災害や水害を想定した訓練
避難所状況の確認訓練

計画的な防災に関する勉強会を実施する

子どもたちへ地区の防災訓練に参加を促す

自治会・行政組織には男性が多い

女性視点の防災に関する知識・経験が不足

性別による役割分担が固定化傾向にある
(男性は運営中心・女性は炊き出し等)

地域住民同士のつながりが弱い
(自治会に入らない世帯が一定数いる)

地域の防災の担い手不足
(特に若者が少ない)

地域
行政



全ての組織に女性をバランスよく配置する

避難所の運営組織に必ず女性を入れる

多様な人材を適材適所に配置する

地域住民同士の顔が見える関係づくり

定期的な避難所運営ゲームによる訓練

まとめ

災害発生時の助け合いや支援は「自助」「共助」「公助」と言われ、まずは自分の身は自分で守ることが大前提です。しかし、災害レベルが上がると避難行動をとることが要求され、余儀なく避難所生活が始まります。そうしたなかで、災害に備え、男女の性差を尊重し合いながら防災活動に積極的に参加し、災害を乗り越えられるまちづくりが「南アルプス市の男女における防災」のあるべき姿だと考えます。

LGBTという言葉を知っていますか？



聞いたことはあるけど…

性的マイノリティの総称なんだ。
L…レズビアン
G…ゲイ
B…バイセクシュアル
T…トランスジェンダー のことだよ。

頭文字を取っているんだねー。

令和元年度のハーモニーフォーラムで行ったアンケートの結果によると、9割近くの人が、言葉も意味も知っていたんだよ。

既に一般的な言葉として認識されているんだ！

あと、人口の約5%はLGBTだと推定されてるんだよ。南アルプス市でいうと、人口72,000人だから3,600人くらいになるね。

えーっ！？思った以上に身近にいるんだ。

そうなの。でも、自分の周りにLGBTの人がいると答えた人は1割にも満たなかったんだよ。

もし身近にLGBTの人がいたり、信頼して打明けてくれたらどうしたらいいんだろう…。

そうだよな、最初は驚いちゃうかもしれないね。LGBTの問題を解決するためには、どのようなことが必要かという問いには、「社会全体での教育や啓発」、「教育機関での啓発活動」が必要と答えた人が多くいたの。そういった声に応えるように、中学校の公民の教科書でも、LGBTの問題が取り上げられているんだ。

私たちに何ができるのかな？

だったらどんな事に困っていて、どんな事ができるのか。誰もが「自分らしく」生きられる社会について、一緒に考えていこうか。

ここからがスタートです。
誰もが「自分らしく」生きられる社会を考えよう！！



詳細はこちら

子育て班では、「子育てがしやすい環境づくり」をテーマに話し合い調査等を実施してきました。地域や近所との関係性もさることながら「家庭」に重点を置いて話し合いを進めてきました。今回はさらに掘り下げて男性の育休について調べてみることにしました。

育休について

育児休業

- 法律で制度化されたもの
- 申請には条件や受給資格等が必要
- 会社で規定がなくても休業できる
- 育休取得により不当な解雇等がある場合は会社に対して労働局から指導勧告有り

育児休暇

- 育児をするための休暇であり、休業のように権利面での保障がない
- 休暇を取ることに難しい条件はないが、認められるかは会社や職場によって異なる

このように育休といっても単純ではなく、また申請方法の分かりにくさもあるようです。男性の育休取得率が低い原因の一つなのではないかと考えられます。

男性育休取得者の声

育休を取得することへの抵抗感は？

抵抗感はあった

その理由は？

- 周りの男性職員が育児休暇を取得していない
- 自分が休むことで周りに迷惑がかかってしまう

実際に育休を取得してどうだった？

- 女性が育休を取得することの大変さがわかった
- 家事をする大変さがわかった
- 休みといっても単純な休みではなかった
- 子どもが生まれたことを強く実感した
- 育児に対する考え方が変わった
- 母親への負担が、思っていた以上に大きい

育休を実際に取得してみて気付かされる部分が多かったとの話がほとんどでした。今後についても夫婦協力して、親族にも頼りながら育児をしていきたいと話していました。

育休を取得した方からはこのように意識が変わったとの話がありましたが、育休を取得することの抵抗感として職場内の理解が得られるのかという不安が一番あったといいます。



企業の取り組み

A社

育休を取得しやすいよう対象の男性社員宛てに育休の制度内容の通知が自宅に届く。

B社

育休制度についてパソコン等を使い職場全体の理解向上に努める。

C社

子どもが大きくなってきた際の取り組みとして、会社の一室に託児所を設ける。

D社

授業参観などの学校行事に参加しやすいよう独自の休暇を設ける。

社員自身が育休制度を知ることができたり、職場内でも育休を取りやすいように企業側からの配慮等もそれぞれあるようです。

まとめ

子育てをするためには親である本人たちだけではなく、職場の理解や協力が得られることはもちろんのこと、周りのいろいろな人たちの支えがなければ成り立たないものだと感じます。このようにみんなが少しずつ今できることをし、支え合うことで「子育てがしやすい環境」に変化していくのではないのでしょうか。





新しい風が吹く

毎年開催しております「市民座談会」(金丸市長との意見交換会)。今年度は主に人間ドック、下水道、農業環境、愛育会、地域支えあい協議体についての質問に、市長よりお答えをいただきました。

人材が林立

こちらも毎年恒例の「南アルプス市女性議員との交流会」。AED 設置をはじめ防災関連、自治会での女性の活躍、市女性団体連絡協議会の歴史、役割と今後…など多岐にわたる話し合いで、予定した時間が短く感じられました。

また、3月9日(火)と10日(水)に開催された3月議会の代表・一般質問を傍聴し、実際に議場の雰囲気を経験してきました。



熱き火のごとく

コロナ禍で、研修会や各種イベント・団体への協力など、長年行われてきた私たちの活動についても、今年度はほとんどが実施できませんでした。でも、「コロナに負けるな！」私たちは燃えています。

やさしく見守る母なる山

南アルプス市女性団体連絡協議会は



南アルプス市内の女性団体が互いに連携し、市や各種団体とつながりを持った活動を実施しています。

「地域のために」「子どもたちのために」「お年寄りのために」「障がい者のために」さまざまな思いで活動している女性団体の皆さま、ぜひ私たちの仲間になりませんか。

お問い合わせ 南アルプス市女性団体連絡協議会事務局
市役所市民活動支援課 055-282-6493

市消防本部 消防士 小松莉穂さん

Q1 仕事に選んだきっかけは？

高校のとき、バレーボールをしていました。たくさんの方に応援をしていただき助けられてきました。恩返しとして、私も同じように誰かを助けたいと思い、母親の勧めから消防士を調べていたところ、消防車に見事ハマってしまったのがきっかけです。

Q2 消防車のどこにハマったのですか？

デザインです!!トミカとか集めてました!!

Q3 なぜ南アルプス市の消防士を目指したのですか？

施設が綺麗ということと、見学に来たとき先輩たちが明るく楽しそうだったので。目指すなら南アルプス市で初の女性消防士になりたいなあと思いました。

Q4 日頃の活動やその想いは？

まだ新米なので署内での訓練がほとんどです。現場では基本3人一組となるので、私は4人目として補助をしています。南アルプス市は、消防も救急も全部できないといけないので、なんでもやっていきたいです。それに先輩たちが優しいので、今は何をやっても楽しいです。女子バレーが上下関係とかいろいろ厳しかったというのがありますが・・・。

Q5 これからの活動について

女性救命士になって傷病者や家族に寄り添うことで、安心してもらいたいです。また火災現場でも女性がいるという安心感を作っていきたいと思います。

Q6 女性消防士を目指す方へのメッセージ

消防士は、女性でもやってみれば意外とガッツでついていけたり、自分の努力次第でカバーできることはあると思います。“女性だからできない”“私にはできない”って思っても、ちょっとでも興味があれば目指してほしいです。自分でもついていけるので、頑張ればなれます(笑)



Profile

2001年生まれ。北杜市出身。増穂商業高校を経て、南アルプス市消防本部初の女性消防士として採用。趣味・特技は「バレーボール」。高校時代に全国大会出場の実績有り。最近はずっと「嵐」の曲を聴いている。



やまなし農業女子 片山京子さん



Q1 農業を仕事に選んだきっかけは？

東京で働いて14～15年目の頃に、祖父母の農業を手伝ってみたら、結構楽しかったんですね。システムエンジニアの視点で、生産性や効率性を上げることはできないだろうか？とすごい考えてました(笑) どうせなら今まで培ってきたものを、農業で活かせることができたらいいなあって思ったのが農業を選んだきっかけです。

Q2 やまなし農業女子として活動を始めた理由は？

中北農務事務所の女性農業者向け研修に参加したとき、同世代の女性農業者がたくさんいました。せっかくだからつながって何か実践していけたらいいね!と盛り上がったので、結成することになりました。

Q3 どんな活動をしてきましたか？

最初は自己研鑽でした。毎月集まってそれぞれの課題を共有したりとか。そこから農産物の美味しさを通じて、地域の魅力や農業の魅力を伝え、地元を楽しんでもらうために、マルシェなどを開催しています。

Q4 これからの活動について

やまなし農業女子は、実践していく場としてあるので、みんながやりたいことを共感したり、応援したり、後押ししたりする関係で活動をしていきたいです。また、農業者が感じている、農業という仕事の魅力を伝えることで、未来へつなげていきたいです。もっと地域の人と農業者が関われるような活動ができるといいなあと思います。

Q5 地域の方へのメッセージ

これからの農業ってどうなっていくんだろう、という心配は、みんなの心の中に少しずつあることだと思います。『地域で守る、地域で食べる』ことをみんなで考えていきましょう。今の農業は、女性にも活躍の場が広がっています。夫婦共に歩んでいる感じがしますよ。

Profile

1978年生まれ。神奈川県出身。東京でシステムエンジニアとして活躍された後、南アルプス市に移住。趣味は「料理、パン作り」。特技は「プログラミング」。休みの日は、家族でどこかに遊びに行くことが好き。

新女性議員 飯野多恵子さん

昨年11月の市議会議員選挙で、地元の皆さまをはじめ女性の皆さまのご支援をいただき、議員としてスタートを切ることができました。

櫛形町役場、南アルプス市役所に、40数年間勤めていました。在職中は、大半が企画に関連する部署に所属しており、女性行政については当初から携わってきました。その間、“女性議員の必要性”を強く感じ、女性団体連絡協議会の会員からぜひ議員を出したいと考えていました。しかし、行政と女性団体連絡協議会の関係性から推薦母体を作ることが難しいとされ、当時、この想いは叶えることができませんでした。

退職後もこの想いは消えることがなく、私自身が女性団体連絡協議会の一員として活動をするなかで、「今年の選挙に出なければこの想いは叶えることができないのでは。」どうしようかと考えるようになっていました。そのとき、娘から「お母さん、やってみればいいじゃん。」と簡単に言われたことが、私の中で“一番の大きな後押し”でした。それに、「4年後なんて、お母さんボケてるかも。」と言われ「ああ、そうかもしれない。後悔はしたくない。」と感じたことを覚えています。

おそらく多くの方が感じているかと思うのですが、議員への立候補となると「そこまでのふん切りがつかない」「一人で決断



多くの方に「たえちゃん」って呼ばれています。

することが難しい」「地域の中での立ち位置」「家庭の状況」といった様々なことが弊害として出てくるのではないのでしょうか。幸いにも、地域の活動から得たつながりが、私を支えてくれる大きな力となり、長年引かかっていた“女性議員の誕生”という想いに貢献できたと思っています。

女性議員としての活動は、「なかなか難しいなあ」と感じているところではありますが、今後女性議員が5人6人と増えていくことを願い、次につなげていけるよう、私の年齢に見合う活動を、続けていきたいと思えます。 「南アルプス市女性団体連絡協議会 女性議員との交流会あいさつ」より抜粋

新女性議員 藤田亜由未さん

私は藤田亜由未と申します。

生まれも育ちも、北海道釧路市で20歳の時に山梨県に引っ越してきました。ご縁もあり南アルプス市で結婚し、現在は二児の母として中学3年生の男の子と小学6年生の女の子を育てています。

今回、私が市議会議員に立候補した理由は、現役で子育てをしているなかで、これからの未来を担っていく子どもたちにとって“どれだけ住みやすいまちにしていけるのか”ということに大きな課題があると感じたからです。南アルプス市では女性が子育てをしながら市議会議員を務めた方はいなかったそうです。現在、市議会議員22名のうち女性議員は4名となりますが、たくさんの女性の方々と話し合いを重ね、より良いまちにするためには、もっともっと女性議員が増えていく必要があると思います。そのうえで、女性だけではなく、男性の方々とも一緒に試行錯誤をすることで、子どもたちにとって“本当に住みやすいまち”を目指していけるのだと考えています。今回は、そのための第一歩となりますが少しずつ仲間を増やし、子どもたちが憧れるような“本当にカッコいい大人”を見せていくことが10年20年先を見据えたまちづくりにもつながっていくのだと思っています。

また、“子どもの住みやすいまち”についてお話をさせていただきましたが、これからの南アルプス市は“高齢の方や障がいをお持ちの方にとっても住みやすいまち”である必要があると思います。私は、以前、高齢の方や障がいをお持ちの方の施設へ行き、ハンドマッサージやネイルをする活動をしていました。そのなかで「自分で自分のことができることが幸せだ」とおっしゃる方がたくさんいました。市議会議員になれた今“自分のことは自分でできる幸せ”を感じる方をひとりでも増やすために、自立支援についても今後の活動のなかで進めていきたいと思えます。



気軽に「あゆちゃん」と声をかけてくださいね。

「南アルプス市女性団体連絡協議会 女性議員との交流会あいさつ」より抜粋

白根高等学校校長 相沢季里先生

近年、学校教育において「多様性」という概念が増加しているなか、本校では「性的少数者 (LGBT)」や「ジェンダーレス」について、様々な取り組みを始めています。

しかし、このことについて私が教員として意識し始めたのは、まだ教壇教諭だった頃になります。当時は、「性的少数者 (LGBT)」や「ジェンダーレス」についてあまり認知されておらず、当人ですら理解が遅れていた時代でした。一番の悩みは「親に話すことができない」「親が悲しんでしまう」とこととされ、身近な人にすら理解していただけないのです。当時、私は仲の良い友人からカミングアウトされたことで、この問題について深く考えたことを覚えています。

現在の教育現場では、生徒指導へと踏み込んだ道徳教育が、社会に大きな影響を与えています。そのため、今の教育現場だからこそ意識の改革ができると考えたのです。今の子どもたちが大人になってからも、多様な考え方を「受け入れる」ことができるようにと、本校では取り組んでいます。

詳しい取り組みについては、次のとおりとなります。

- ① 校内にたくさんレインボーフラッグを設置
- ② 図書館でLGBTコーナーを設置
- ③ 「男のくせに」「女のくせに」といった言葉の使い方を徹底的に注意
- ④ 強制的にカミングアウトさせない。本人の意思を尊重
- ⑤ 学校における当事者を招いたLGBTに関する講演会の実施
- ⑥ 授業の中で教材として実施
- ⑦ 制服の見直し。男女混合名簿

これらの取り組みは、「性的少数者 (LGBT)」や「ジェンダーレス」について生徒一人ひとりが理解し、考えていくきっかけとなっています。本校では、今後も同様の取り組みを行っていく予定です。

今いる生徒たちを大切にするために、また、これからの子どもたちが学校でHAPPY (本校のスクールスローガンでもある) に生活できるように、教員をはじめ、地域住民とも力を合わせていきたいと思えます。



制服のポイント5つ

- ① 女子もスラックス OK
- ② 丸洗い OK
- ③ 半そでシャツを追加
- ④ 青いポロシャツを追加
- ⑤ 制服のスリム化 (美シルエット)

白根高校だからできる!

制服コーデで高校生活を満喫♪♪

自分流のコーデを見つけて楽しも～



▲白根高校の制服のバリエーション

公益社団法人 程ヶ谷基金男女共同参画・少子化関連顕彰事業 「特定非営利活動法人 森の劇場」活動賞受賞

この顕彰事業は、公益社団法人 程ヶ谷基金による男女共同参画社会の推進及び少子化対策において活動の一層の推進を目指すことを目的に実施されています。

「特定非営利活動法人 森の劇場」は、様々な考え方や経験を持つ人々が集い、表現の楽しさや自由さ不自由さを体感する「演劇創作活動」や加速する少子化の一端でもある「孤育て」のサポートをする私的学童「じいじの家」の開催など、地域密着、多世代、他ジャンルの関わりを強みとした「演劇創作活動」と「子育て支援」の合体型スタイルの活動を行っています。

この度は、俳優など様々な立場・年齢の人との関わりにより多様な価値観に触れ、地域を巻き込んだ様々な取り組みを通じ、子どもたちが自主性を確立し、コミュニケーション能力を向上させることが期待できるような、多彩な活動を行っていることが評価されました。



男女共同参画講演会 山内幸雄先生(憲法学者)

市では、男女共同参画の推進のため、毎年講演会を実施しています。今回は「より良い暮らしづくりのための男女平等～推進の課題解決に向けて～」をテーマに、ご講演いただきました。

男女共同参画社会の基礎的な知識から、効果・効能、実現までの弊害として「ジェンダー」や「男女格差」、世界各国における実情として「GGI (ジェンダー・ギャップ指数) ランキング」など、様々なお話をしていただきました。また、ホルモンの影響により男性が女性に、女性が男性になってしまうことなど、LGBTについても考えさせられる場面もあり、参加者は深く聞き入っていました。

講演内容(抜粋)

男女共同参画が目指す社会

- ① 「女性にとって働きやすい職場」= 「男性にとっても働きやすい職場」
- ② 「女性にとって暮らしやすい社会」= 「男性にとっても暮らしやすい社会」

効果・効能

経済の発展や社会の進展、持続可能な発展がもたらされ、不景気・貧困・少子化の解消など影響が多岐にわたる。



難しい内容のようですが、関西出身の山内先生ならではの小粋なトークは、とても親しみやすく楽しい講演会でした。講演後のアンケートでも「GGI ランキング上位国は、下位国の日本とどう違うのか」「ジェンダー差別は身近でも起こっているのだと気付いた」「日本でも外国を見習って進めていく必要がある」といった感想があり、男女共同参画についてももう一度見つめ直す機会となったようです。